

全国統一要求（抜粋）

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

第30回全国ダンプキャラバン 各地の要請行動に参加しよう

統一行動

単価改善は必要不可欠 現場の実態を伝えよう

全国ダンプ

今年も第30回目となる全国ダンプキャラバン行動が7月〜8月を中心に各県で取り組まれます。中心となる要請項目は、「低単価改善の指導、過積載の根絶、使用促進措置の指導徹底、建設発生土対策の強化、不当な自家用（白ナンバー）の排除、労災加入促進、建退共証紙の貼付徹底」等。各支部では行動の成功に向けて、各組合員が積極的に参加し、ダンプの実態と要求を公共工事発注当局に伝えるようにしましょう。

第30回目の全国ダンプキャラバン行動は、政府によるコロナ対策が緩和された中、各地で取り組まれます。現在も燃料及び物価高騰や水光熱費の値上げなどで日々の生活がたいへん厳しくなっています。安心して働き続けるためにダンプの単価改善は必要不可欠です。現場から組合員が積極的に参加して各発注当局に対して、ダンプの改善要求を直接伝えましょう。札幌ダンプ支部は7月5日（水）、全国に先駆けて北海道開発局への要請をおこないました。この行動には、全国ダンプ部会の森谷顧問と森国北海道本部委員長、宮澤北海道本部書記長、札幌ダンプ支

部田家委員長などが参加しました。開発局からは事業振興部と建設部の担当課長補佐など4名が対応しました。要請では、適正単価の支払い、「ダンプ規制法」の趣旨の徹底、過積載防止、「白ナンバー排除」問題、労災保険の特別加入の促進、建退共証紙長の徹底などについて回答を受

東北・関東の各支部代表がスーパーゼネコン各社（鹿島建設、大林組6月28日、清水建設6月29日）の株主総会行動に取り組みました。鹿島建設には6名が参加しました。「リアアの談合問題及び12条団体等の使用促進措置」について発言。回答はリスク管理委員会設置、法令違反ならびに不正行為の早期発見と是正と一般的な回答に終始。続いて「使用促進措置」は、「協力会社への周知、同団体と交渉の上、価格合意したら使用する」との回答。さらに「建交労とは、3月に定期協議している」と鹿島建設が建交労を意識した発言もありました。引き続き質問を求めると閉会を強行されました。翌日29日は、清水建設の株主総会に4名が参加し、昨日と同様の時間を繰り返しました。発言の時間短縮や要約を迫られましたが、株主の権利として堂々とダンプの単価及び労働条件改善を実施するよう役員たちを迫りました。



12条団体等の使用促進の歴史的な経過を伝え、元請指導の強化を求めました（7月5日北海道開発局）



ゼネコン各社の株主総会行動に参加し、法令順守の徹底を求めました。（6月29日東京・清水建設本社）

けたあと、森谷顧問が「ダンプ規制法第12条団体」の使用促進措置について歴史的な経過をふくめて詳しく説明しました。参加した担当課長補佐らは、この説明にうなずきながらメモを取って聞き入っていました。札幌ダンプ支部では、全国

使用促進、単価改善を
ゼネコン各社へ直談判

職場公然化から約30年 労働組合の大きな成果

関西ダンプ 春闘で退職金制度を要求 建退共証紙の給付を実現

関西ダンプ支部は、32年前の1991年に大阪府高槻市に本社を置く高槻砕石分会で職場を公然化し、春闘要求で退職金制度を要求し獲得しました。この度、専属ダンプとして働いていた一台持ちダンプ労働者の組合員が健康状態の都合もあり、今年3月末でダンプを廃業(退職)することとなりました。当時1日働くと260円の建退共証紙を1枚貼付、約31年間で7,700枚の建退共証紙を会社が支給しました。その結果約420万円の退職金を手にするこ

とができました。当人や家族らほたいへん喜んでます。当時、高槻砕石(株)は、本社のある高槻工場と茨木工場の両方で約40台の専属車両が働いていました。当時は数台持ちの親方もいました。同じ仕事をしているのに親方が手数料を取るため、純粋な一台持ちと売上げに格差がありました。数年かかりましたが親方制度をなくし、すべて一台持ちになり、全員が組合に加入しました。単価の引き上げ交渉では夜中零時を過ぎる団体交渉も経験しました。

また、2002年の春闘では、建設・生コン業界の経済状況の悪化による仕事量の激減対策として協定単価を暫定的であるが、単価の値下げを協定で交わした年もありました。お互いに正常な労使関係を確立し、現在も毎年春闘要求・一時金要求を提出、誠実な団交をおこない、協定書を交わしています。一台持ちのダンプ労働者の退職金制度を要求し、実現できた事は労働組合を結成したからこそ実現できた大きな成果だっただけでありません。

**要求闘争と団結を強化
組合員拡大で奮闘しよう** 北陸ダンプ
北陸ダンプは6月18日(日)に、第28回定期大会を石川県地場産業振興センターで開き、37名の仲間が参加しました。大会は山田満委員長が「新型コロナが5類に移行したが物価上昇、燃料価格の高騰、電気料金値上げなど、我々を取り巻く環境は厳しい。こうした試練を乗り越え、組合のメリットが感じられるようにし、団結して乗り切っていきたい」と主催者あいさつをおこないました。



支部大会に43名が集まり、楽しく交流しました (6月11日福山市内)

原則的な活動を推進 組合員拡大で奮闘を

徳島ダンプ支部は、6月18日(日)に第35回定期大会を徳島市内で開催しました。大会には組合員が約30名参加。経過では、白ナンバー排除反対の闘い、企業組合の運営、各自自治体への物価高騰の支援金申請についての報告がありました。組合員拡大ではダンプ、軽貨物個人事業主の組織化を追求。運動方針では過積載根絶、ダンプキャラバン行動や各種の相談活動を進めていく等が提案され、全ての議案は採択されました。執行部は提案通りに全員が選ばれ、大会を終えました。

役員体制
議長 長 山田 満
副委員長 山田 信二
書記 長 東 史郎
書記次長 田中 清明
**支部大会に43名参加
仲間の交流を深める** 広島ダンプ
広島ダンプ支部は、6月11日(日)に福山市内で第36回定期大会を43名の参加で開催

しました。大会では、小林議長が「広島サミットは我々も協力した。しかし、核兵器禁止条約には触れず、核廃絶を究極目標として遠くへ追いやされた。」とあいさつしました。続いて武田事務局長より、「経過報告、会計報告」があり、経過では「ダンプアンケイト」「ダンプキャラバン」「過積載調査」「生公運運動」「盛土規制法について」「インボイスの学習会」が報告されました。続いて、新年度運動方針案と予算案が提案され、全て満場一致で成立しました。大会終了後は、昼食交流会を行い、新加入した組合員なども交えて交流を深めました。

役員体制
執行委員長 井上 智宏
副委員長 日下 仁志
書記 長 丸岡 昭
特別執行委員 佐野 誉



関西ダンプ支部高槻砕石分会の仲間たち (大阪・茨木メーデー会場)



ダンプの要求実現を目指して、組合員拡大も奮闘を (6月18日金沢市内)